



「誰かの役に立てるように・・・」

3年主任 高 須 優 典

3年生は「地域とつながり、地域を笑顔にしたい」という生徒の思いから、2学期に幸田中学校区の保育園へ交流会に出かけました。初めはぎこちないところからのスタートでしたが、家庭科の授業で作成したおもちゃを持参して一緒に遊んだり、園児たちのやりたいことを聞き、一緒になって楽しんだりする中で、自然と心が打ち解け、笑い合ったり、スキンシップを取ったりする姿が至る所で見られました。



「守らなければいけないもの」ができたかのような、生徒たちの優しく、そして力強い表情に頼もしさとちょっぴり「大人の姿」を垣間見て、成長を感じました。

ある生徒の振り返りにこんなことが書かれていました。「自分たちが保育園の子たちを笑顔にしたいと想着ていろいろと考えてやってみたけれど、自分が考えた通りにはいきませんでした。でも楽しませようとか笑顔になれるようにするためには、どうしたらよいかを考えて過ごしていたら、いつの間にか交流の時間が終わって、いつの間にか自分が笑顔にしてもらっていました。最後に園児をだっこした時、離れたくないなと思いました。めっちゃかわかったです。次はもっともっと楽しませてあげられるように、反省を生かして2回目の交流会に行きたいです。」

自分が誰かのために動いたことがきっかけで、いつの間にか自分がうれしい気持ちにもらえることは、自分が誰かのために頑張ったからこそ感じられることである一方で、裏を返せば、その人に対しての思いや愛がなければ感じられないものだと思います。言い換えると「誰かを幸せにすること・誰かのために動くこと」＝「誰かの役に立つこと」でもあると思います。よかれと思って誰かのために動いたことでも、自分の気持ちや思いが相手に伝わらないこともあります。すれ違ってしまう時もあります。年齢を重ねていくと人間関係はだんだんと複雑になっていくものですが、それでも自分の立場や置かれた環境の中で、誰かの役に立てた時に一緒に喜べたり、自分自身も幸せな気持ちになれたりするのは、すごく大切なことではないでしょうか。こういう時代だからこそ、これからは生き抜いていくためにも必要な感覚だと思っています。

そんな私も、今年初めて学年主任という仕事をいただき、これまでの教員人生の中で初めて担任のない1年を過ごすことになりました。学年主任という仕事は担任と比べると生徒と直接関われないことも多くなり、「担任の先生はいいなあ・・・」と思うこともありましたが、しかし、担任をしている時以上に、人と人をつなぎ、誰かの役に立てる瞬間がたくさんあることにも気付きました。

人は一人では生きていけません。必ず人と人とのつながりの中で生きていきます。私自身教員になってからも、自分自身に関わってきてくださった方々の愛情や優しさでここまで育てていただきました。そのいただいた愛情や優しさを、さらに自分が「誰かの役に立つこと」で還元していけるように頑張っていきたいと思っています。

令和7年度学校評価(教育活動診断)



11月中旬に実施した「教育活動診断票(アンケート調査)」へのご協力、ありがとうございました。今年度も生徒と保護者の両者に協力していただきました。1月19日に「学校運営協議会」を開催し、9名の委員の方とアンケートの分析※を行いました。調査結果から見た傾向や特徴は次のとおりです。



10/23 幸中祭2日目全校ダンス「開幕宣言」

※ 分析は、教育活動診断アンケートの4段階の評価のうち、主としてA(よくあてはまる)、B(ややあてはまる)の評価を合わせた数値を基にして行いました。

全般的な傾向・特徴

「命輝く学校」のあるべき姿を求めて

○ 生徒全体では、Q1「学校へ行くことが楽しい」について、肯定的な評価の割合が上昇(81.4%→83.6%)しました。3年生を中心に、昨年度新たに立ち上がった全校ダンス「開幕宣言」や全校合唱「ふるさと」を受け継ぎ、次の代につないでいこうと意欲的に取り組んだことをはじめ、学校生活の中で楽しみを見つけ、充実した生活を送ったことが高評価につながったのではないかと考えます。学校行事を振り返ると、生徒の「命輝く」姿が随所に見られました。今後も、学校教育の基本である、学校へ行くことが楽しいと思う気持ちを高められるような取組を進めていきたいと思えます。



10/23 幸中祭2日目有志発表

また、学習に関するQ13「授業に真剣に取り組んでいる(91.9%→94.6%)」Q15「学習内容が理解できている(84.1%→86.7%)」Q16「ノートや課題、作品などの提出物をきちんと提出している(83.5%→87.3%)」の三つの項目で、肯定的な回答の割合の上昇が見られました。愛知県総合教育センターや西三河地方事務協議会の研究委嘱を受け、生徒が主体的に学ぶ授業の研究に取り組んでいますが、本アンケート結果から、学習の基本を大切にして授業に臨む生徒の姿が浮かび上がりました。一方で、Q14「授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している」についての肯定的な回答の割合は昨年度と横ばい(52.1%→52.0%)でした。これについては、教師は、授業で自分の考えを言わずにいられないような課題設定

を行うこと、生徒は、受け身ではなく、一人一人が授業を創るという姿勢をもたせることを課題とし、今後も研究に取り組んでいきたいと考えています。

* * *

○ 保護者の回答では、Q6「学校は、縦割り活動やダンス、合唱など、学校の特色と伝統を大事にしようとしている」について、肯定的な回答の割合が上昇（93.7%→95.4%）しました。全校ダンスや全校合唱は、本校に長く続く伝統的な活動になっています。今後も、生徒と教員が同じ目標に向かって一つのを創り上げる時間を大切にしていきたいと思えます。

また、Q13「お子さんは、家庭であいさつや返事がしっかりできている（82.4%→85.5%）」Q20「お子さんは、家庭で情報機器を、家庭のルールを守り、モラルを守って使用している（64.4%→70.1%）」についても、肯定的な回答の割合が上昇しました。この結果から、家庭のルールを守り、落ち着いた生活を送っている生徒の姿が想像できます。家庭生活と学校生活の両方がかみ合い、生徒が安心感をもてる日常を送れるよう、今後も連携を図っていききたいと思えます。

* * *

○ 充実した学校生活を示す結果が表れた一方で、心配な面もみられました。

生徒Q10「部活動に目標をもって取り組んでいる」の数値が、今年度大きく下降（87.5%→80.2%）しました。関連した保護者Q17「お子さんは、部活動に積極的に参加している」の数値も下降（88.4%→83.7%）しています。入部が選択制になり、部活動の地域展開も話題に上る中で、生徒や保護者の考えも揺らいでいるように感じます。



11/8 女子テニス部県大会3位

また、生徒Q18「家庭での学習時間」は、ここ数年減少傾向にありましたが、今年度はさらに顕著になりました（R5：56.8%→R6：52.3%→R7：41.6%）。特に、1・2年生の学習時間の短さが心配です。学校から出される学習課題が以前に比べて少なくなっていること、帰宅してからの過ごし方が多様化していることなどが要因として考えられますが、これまで中学校生活の中核をなしてきた「学習と部活動の両立」という考え方が、曲がり角に差し掛かっていることを改めて実感する結果となりました。

今回のアンケートでいただいたご意見やお考えを基に、今後も生徒の命が輝く学校づくりに励んでいきたいと思えます。